

卒業生のいま



彦根市立城北小学校 教諭 やだ まきこ 矢田 麻希子さん

■ Profile 彦根市出身。平成25年3月、滋賀大学教育学部学校教育教員課程生活・技術コースを卒業。1年間、滋賀大の附属小学校で講師を務めた後、同27年4月、彦根市立城北小学校に赴任。3年生の担任となる。同28年4月からは2年生を担任。幼稚園の担任の先生に憧れて、教師をめざす。城北小学校に赴任した際、隣の城北幼稚園に恩師がいることを知り、感動の再会を果たす。

ボランティアを通して子どもたちと心を通わせた大学時代 何事にも臆せずぶつかって、貪欲にやりきる

■ 教師をめざして滋賀大へ

いつも優しくニコニコしていた幼稚園の先生が大好きで、ずっと幼稚園の先生になりたいと思っていました。「教師をめざすなら滋賀大がいいよ」という担任の勧めもあり、滋賀大へ進学。教育実習で子どもたちと触れ合う中で、小学校の教師もいいなと思うようになりました。「滋賀大はアットホームな大学」と聞いていましたが、オープンキャンパスに行き、ゼミの催しを見学した際、少人数で先生と学生さんがとても仲が良く、この大学だったら自分がやりたいことができるかも……と感じたことを覚えています。

■ ボランティアに明け暮れた大学時代

大学時代には、毎年、滋賀県文化振興事業団が募集している「希望ヶ丘キャンプリーダー」として、滋賀県内の小学4年生～6年生が参加する野外活動でボランティアをしていました。7泊8日のキャンプの間、グループの子どもたちと家族のように過ごしたことは忘れられません。特に、ずっと「うちに帰りたい」と泣いてばかりいた子が、最終日に「帰りたくない。わさび（講習会でのニックネーム）もみんなも家族やからずっと一緒にいたい」と大泣きして、私達のグ



ループだけ最後まで残っていたことは、とても印象に残っています。また、希望ヶ丘での施設利用者に対する講習会では、講師として1,000人もの参加者を前に説明するという経験をしたおかげで、引込み思案を克服することができましたし、他大学との交流を深めるきっかけにもなりました。

また、大学でも「石山っこ」という親子活動を支えるボランティアをしていました。教育学部構内の畑で栽培した季節の野菜を調理して食べたのも楽しい思い出です。

■ より親近感を深めるぬいぐるみ

卒業後1年間は滋賀大の附属小学校で講師をしていました。先輩教師の授業を直に見ることで、子どもたちが達成感を味わうノウハウを学ぶことができ、翌年は自信をもって試験に臨むことができました。

初任者研修で講師の先生から「何か特技を生かしなさい」と言われ、いろいろ考えた結果、ぬいぐるみの製作を思い立ちました。昨年はコアラの「イチタロウ」、今年のはうさぎの「いちのすけ」。子どもたちもぬいぐるみがそばにいることで、より親しみを感じてくれているようです。

■ したいことを貪欲にやりきる

4年間の大学生生活は、一生の中で大切にしたい何かを見つける貴重な場所。私自身は、一生付き合っていける人とのつながりを得ることができました。恐れることなくぶつかって、自分のしたいことが貪欲にやりきれたらいいですね。



関西電力株式会社 やまもと ひろき 山本 大貴さん



■ Profile 大阪府吹田市出身。平成25年3月、滋賀大学経済学部企業経営学科を卒業。同年4月、関西電力株式会社に入社。6月、北摂営業所の配属となる。同26年8月、本店経理室予算グループに転属となり、現在に至る。大の野球好きで、小学校から高校までは野球づけの日々をおくる。大学時代も野球部に所属し、同期とは今も時々連絡をとるなど、固い絆で結ばれている。

これまでの人生で最も頑張った就職活動 電力の供給に関わる仕事で暮らしや企業を支えたい



■ 企業経営に関心を抱き滋賀大へ

高校を卒業するまでは野球三昧。大学受験に失敗し、浪人中に企業経営に触れる機会があって、経済学部のある大学を志すようになりました。中でも滋賀大の経済学部には情報管理学科や企業経営学科などがあり、幅広く勉強ができると思ったのです。大学でも野球部に入り、1部リーグに上がるのを悲願としてみんなで頑張りました。勉強・部活・アルバイトと、バランスのとれた学生生活をおくることができましたと思います。

■ 辛い就活を支えた恩師の言葉

3回生の時に東日本大震災が起こり、ゼミでも震災復興のビジネスプランを立てるなどの経験をしました。原子力の意味が問い直される中、関西電力を受験するというと「大丈夫なのか？」とみんなから心配されましたが、電力の供給を通じて人々の暮らしや企業活動を支えたいという自分の思いと企業の方向性にブレはなかったので、ためらいはありませんでした。就活に関しては、これまでの人生で一番といえるほど頑張りました。

した。人前に立つのが苦手だったので、会社説明会で必ず一度は挙手して質問し、自分の話し方や顔の表情を鏡に映して見るなどいろいろ研究しながら弱点を克服しました。先輩たちが残してくれた就職試験の資料も大いに役立ちましたね。

就活中は思い悩むことも多かったのですが、よくゼミの先生に相談しましたが、常に前向きな言葉をかけていただき、それを心の支えにして乗り切ることができました。

■ 思いきりの良さを生かしてチャレンジ

初任地の北摂営業所ではリビング営業で窓口を担当。その後本店の経理室に配属となり、1年目は全社の予算編成、現在は管理会計のしくみをつくっています。4月からの電力自由化に伴う関西電力では前例のない立ち上げの仕事ですが、先輩方からアドバイスをいただき、入社4年目という思い切りの良さを生かしながら取り組んでいます。

■ 就活とは自ら乗り込んでいくこと

近隣に競合大学がほとんどないせいか、滋賀大の学生は就活のスタートが遅いですね。先輩からは常々「滋賀大で受けた企業が一番になるくらい頑張って、ようやくほかの大学と同レベルだ」と言われてきたので、私は早めに準備を始めました。就活とは受け身ではなく自ら乗り込んでいくことだと思うので、できるだけたくさんの企業説明会に行き、話を聞き、自分に合った企業を選ぶことも大切だと思います。

